

教科名		数学	科目名	数学Ⅰ		単位数	3
教科書等		数学Ⅰ（数研出版）			教材等	チャート式基礎からの 数学Ⅰ（数研出版） 4STEP 数学Ⅰ（数研出版）	
目 標		数と式，図形と計量，2 次関数及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。					
評価の観点		関心・意欲・態度		数学的な見方や考え方	数学的な技能		知識・理解
観点の趣旨		数と式，2 次関数，図形と計量及びデータの分析における考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。		数と式，2 次関数，図形と計量及びデータの分析において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式，2 次関数，図形と計量及びデータの分析において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。		数と式，2 次関数，図形と計量及びデータの分析における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	定期／到達度テスト			○	○		○
	章末テスト			○	○		○
	課題	○		○			
	学習状況・小テスト	○		○			
学期	月	単元内容（単元名）			具体的な学習内容		
前期	4	第 1 章 数と式 第 1 節 式の計算 1 整式 2 整式の加法と減法および乗法 3 因数分解 第 2 節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算 第 3 節 1 次不等式 6 1 次不等式 7 1 次不等式の利用 第 4 節 集合と命題 8 集合 9 命題と条件 10 命題と証明			式の展開と因数分解について，目的に応じて式を変形したり，見通しをもって式を扱うことができるようにする。数の体系についての理解を深め，絶対値や根号を含む式の計算ができるようにする。不等式の基本性質と 1 次不等式の解法について学び，不等式の解の意味について理解する。命題，必要条件，十分条件および逆・裏・対偶などは，定義をしっかりと理解し，論理的な思考力を伸ばす。		
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	1						
後期	2	第 2 章 2 次関数 第 1 節 2 次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2 次関数のグラフ 3 2 次関数の最大と最小 4 2 次関数の決定 第 2 節 2 次方程式と 2 次不等式 5 2 次方程式 6 グラフと 2 次方程式 7 グラフと 2 次不等式			2 次関数について理解し，関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに，それを具体的な事象の考察や 2 次不等式を解くことなどに活用できるようにする。2 次方程式の解の公式を導き，実数解を持つ 2 次方程式を解けるようにする。2 次関数の値の変化を考察することを通して，関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。2 次関数のグラフと x 軸との共有点を考え，2 次関数と 2 次方程式の関係について理解する。また，グラフと x 軸との位置関係から，関数のグラフと不等式の関係について理解する。		
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						

		第 3 章 図形と計量 第 1 節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 第 2 節 三角形への応用 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理・余弦定理の応用 7 三角形の面積 第 4 章 データの分析 1 データの代表値 2 データの散らばりと四分位範囲 3 分散と標準偏差 4 データの相関 5 表計算ソフトによるデータの分析	正弦・余弦・正接を直角三角形における辺の比と角の大きさとの間の関係として導入し，その意味を理解する。角を鈍角や，0°，90°，180° の場合まで拡張し，正弦・余弦・正接の意義を理解できるようにする。また，それらの相互関係について学習し，計算ができるようにする。三角形のそれぞれの辺と角との間に成り立つ基本的な関係を理解し，式の取り扱いができるようにする。正弦定理や余弦定理などの活用場面として，平面図形や簡単な空間図形の計量を扱い，いろいろな図形の辺の長さ，面積・体積などが求められるようにする。 四分位数，四分位範囲，分散及び標準偏差などの用語を知り，意味を理解するとともに，それらを利用してデータの傾向を的確にとらえ説明できるようにする。分散や標準偏差の計算を行う。1 つの変量がもう 1 つの変量に強い関連がある場合と，ない場合がある。相関係数を用いて，その度合を計算する。また，相関係数と散布図の関連を考察し，変量 X と Y の間の相関関係を調べる。
	1 2		
	1		
	2		
	3		

教科名		数学	科目名	数学A		単位数	2							
教科書等		数学A（数研出版）			教材等	チャート式基礎からの 数学A（数研出版） 4STEP 数学A（数研出版）								
目 標		場合の数と確率，図形の性質または整数の性質について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を養い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。												
評価の観点		関心・意欲・態度		数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解								
観点の趣旨		場合の数と確率，図形の性質または整数の性質における考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。		場合の数と確率，図形の性質または整数の性質において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。								
評価方法	定期／到達度テスト			○	○	○								
	章末テスト			○	○	○								
	課題	○		○										
	学習状況・小テスト	○		○										
学期	月	単元内容（単元名）			具体的な学習内容									
前期	4	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列 4 円順列・重複順列 5 組合せ 第2節 確率 6 事象と確率 7 確率の基本性質 8 独立な試行と確率 9 反復試行の確率 10 条件付き確率			数え上げの原則や順列・組合せについて理解し，事象を数学的に考察できるようにする。不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに，事象を数学的に考察し処理する能力を養い，確率を活用する能力を伸ばす。数え上げの原則として，和の法則と積の法則を学ぶ。順列・組合せの数について学び，それを具体的な場面に活用できるようにする。試行や事象の考えを明確にして，確率の基本的な法則をまとめる。独立な試行とその繰り返しについて，身近な事例をもとにして，確率の計算について理解を深める。いろいろな条件つき確率を求めることができるようにする。									
	5													
	6													
	7													
	9													
	後期							10	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1 三角形の辺の比 2 三角形の外心・内心・重心 3 チェバの定理・メネラウスの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線 6 方べきの定理 7 2つの円の位置関係 8 作図 第2節 空間図形 9 直線と平面 10 多面体			辺の長さや角の大きさとの関係，内角・外角の2分線と辺の比などを学ぶことにより，図形に対する直観力・洞察力を養う。円周角の定理とその逆，円に内接する四角形の性質及び四角形が円に内接するための条件，円の接線と接点を通る弦とのなす角の性質，方べきの定理及び2つの円の位置関係について学び，それらを活用できるようにする。平面と直線の位置関係，平面と直線とのなす角などを学ぶ。		
								11						
								12						
					すべての整数は必ず素数の積に分解されて，その表し方はただ1つであることを理解する。素因数分解しにくい大き									

	1 2 3	第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 1 約数と倍数 2 最大公約数・最小公倍数 3 整数の割り算と商および余り 第2節 ユークリッドの互除法 4 ユークリッドの互除法 5 1次不定方程式 第3節 整数の性質の活用 6 n進法 7 分数と小数	な素因数をもつ2つの整数の最大公約数を求める方法として、ユークリッドの互除法は多くの利用価値があることを理解する。二元一次不定方程式では、特殊解を用いて一般解を求めることを学ぶ。いろいろな数を表す仕組みを学び、あわせてそれがどのように利用されているかを学ぶ。記数法や小数（有限小数や無限小数）の性質を学ぶ。さらに、10進法をはじめ、コンピュータの原理である2進法などを学ぶ。
--	-----------------------------	--	---

教科名		数学	科目名	数学Ⅱ		単位数	4
教科書等		数学Ⅱ（数研出版）			教材等	チャート式 数学Ⅱ（数研出版） 4STEP 数学Ⅱ（数研出版）	
目 標		いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。					
評価の観点		関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解		
観点の趣旨		いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分における考え方や体系に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基いて判断しようとする。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。		
評価方法	定期／到達度テスト		○	○	○		
	章末テスト		○	○	○		
	課題	○	○				
	学習状況・小テスト	○	○				
学期	月	単元内容（単元名）		具体的な学習内容			
前期	4	第1章 式と証明 第1節 式と計算 1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 整式の割り算 4. 分数式とその計算		3次の乗法公式や二項定理及び因数分解の公式を理解し，それらを用いて式の展開や因数分解を学習する。また，整式の除法や分数式の四則計算について学習する。等式や不等式が成り立つことを，それらの基本的な性質や実数の性質，絶対値の性質，相加・相乗平均の関係などを用いて証明することを学習する。			
	5	5. 恒等式 第2節 等式と不等式の証明 6. 等式の証明 7. 不等式の証明					
	6	第2章 複素数と方程式 1. 複素数 2. 2次方程式の解と判別式 3. 解と係数の関係 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式		数を複素数まで拡張する意義を理解し，複素数の四則計算を学習する。2次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解し，それらを活用できるようにする。さらに，因数定理について理解し，簡単な高次方程式の解を因数定理などを用いて求める。			
	7	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 第2節 円 5. 円の方程式		座標を用いて，平面上の線分を内分する点，外分する点の位置や2点間の距離を表すことを学習する。座標平面上の直線を方程式で表し，それを2直線の位置関係などの考察に活用することを学習する。座標平面上の円を方程式で表し，それを円と直線の位置関係などの考察に活用することを学習する。図形を与えられた条件をみたす点の集合としてみる考えの理解を通じて，軌跡や領域について理解し，軌跡を求めたり，不等式の表す領域を求めたり，領域を不			

後期	9	6. 円と直線 7. 2つの円 第3節 軌跡と領域 8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域	等式で表したりすることを学習する。
	10	第4章 三角関数 第1節 三角関数 1. 一般角と弧度法 2. 三角関数 3. 三角関数の性質 4. 三角関数のグラフ 5. 三角関数の応用	角の概念を一般角まで拡張する意義や、弧度法による角度の表し方や扇形の面積の求め方などについて学習する。また、三角関数について、相互関係などの基本的な性質や周期性をもつグラフの特徴について学習する。さらに、三角関数を用いた方程式・不等式の解を求めることを学習する。三角関数の加法定理を理解し、それを用いて2倍角の公式を導くことができるようにする。さらに、三角関数の合成について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	11	第2節 加法定理 6. 加法定理 7. 加法定理の応用 8. 三角関数の合成	
	12	第5章 指数関数と対数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数 3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数	指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解する。指数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用することを学習する。対数の意味とその基本的な性質について理解する。対数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用することを学習する。さらに、常用対数の理解を通じて、対数関数の有用性を認識する。
	1	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数	微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることを学習する。導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかくことを学習する。グラフの概形を利用し、方程式の解や不等式の証明など、微分の考えを事象の考察に活用することを学習する。不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分を求めることを学習する。また、定積分を用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求めることを学習する。
	2	第2節 導関数の応用 3. 接線 4. 関数の値の変化 5. 最大値・最小値 6. 関数のグラフと方程式・不等式	
	3	第3節 積分法 7. 不定積分 8. 定積分 9. 面積	

教科名		数学	科目名	数学B		単位数	2
教科書等		数学B（数研出版）			教材等	チャート式 数学B（数研出版） 4STEP 数学B（数研出版）	
目 標		ベクトル，数列について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを活用する態度を育てる。					
評価の観点		関心・意欲・態度		数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解	
観点の趣旨		ベクトル，数列に関心をもつとともに，それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。		事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，ベクトル，数列における数学的な見方や考え方を身に付けている。	ベクトル，数列において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	ベクトル，数列における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。	
評価方法	定期／到達度テスト			○	○	○	
	章末テスト			○	○	○	
	課題	○		○			
	学習状況・小テスト	○		○			
学期	月	単元内容（単元名）			具体的な学習内容		
前期 後期	4	第1章 平面上のベクトル 第1節 平面上ベクトルとその演算 1. 平面上のベクトル			平面上のベクトルの意味や演算，成分および内積などの基本的な概念について理解し，ベクトルを用いて図形の性質を考察します。位置ベクトルの考えを理解し，図形の性質の考察において形式的な処理ができることを学習します。ベクトル方程式を取り扱い，平面図形の性質や関係をベクトルを用いて表現できるようにします。		
	5	2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分					
	6	4. ベクトルの内積 第2節 ベクトルと平面図形					
	7	5. 位置ベクトル 6. ベクトルと図形 7. ベクトル方程式					
	9	第2章 空間のベクトル 1. 空間の座標			空間座標の概念を導入し，その意味や表し方について理解するとともに，内積や成分などの平面上のベクトルの考えを空間に拡張して，空間図形の考察に活用できるようにします。空間においてもベクトルが定義され，内積を含むベクトルの演算，位置ベクトルの考えなどが，平面上の場合と同様に考察することができ，空間図形の具体的な問題の解決に応用できることを理解します。		
	10	2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分					
		4. ベクトルの内積 5. 位置ベクトル					
	11	6. ベクトルと図形 7. 座標空間における図形					
12		第3章 数列 第1節 数列とその和 1. 数列			数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにします。和の記号 Σ を導入して，数列の和をこの記号を使って表すことを学び，記号 Σ によって，いろいろな数列の和が見通しよく計算できることを理解します。数列を漸化式で表し，漸化式の意味を理解します。		
1	2. 等差数列とその和 3. 等比数列とその和 4. 和の記号 Σ 5. 階差数列						

	2	6. いろいろな数列の和	
		第2節 数学的帰納法	
	3	7. 漸化式と数列	
		8. 数学的帰納法	

教科名		数学	科目名	数学B		単位数	3
教科書等		数学B（数研出版）			教材等	チャート式 数学B（数研出版） 4STEP 数学B（数研出版）	
目 標		ベクトル，数列について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを活用する態度を育てる。					
評価の観点		関心・意欲・態度		数学的な見方や考え方	数学的な技能		知識・理解
観点の趣旨		ベクトル，数列に関心をもつとともに，それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。		事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，ベクトル，数列における数学的な見方や考え方を身に付けている。	ベクトル，数列において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。		ベクトル，数列における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。
評価方法	定期／到達度テスト			○	○		○
	章末テスト			○	○		○
	課題	○		○			
	学習状況・小テスト	○		○			
学期	月	単元内容（単元名）			具体的な学習内容		
前期	4	第1章 平面上のベクトル			平面上のベクトルの意味や演算，成分および内積などの基本的な概念について理解し，ベクトルを用いて図形の性質を考察します。位置ベクトルの考えを理解し，図形の性質の考察において形式的な処理ができることを学習します。ベクトル方程式を取り扱い，平面図形の性質や関係をベクトルを用いて表現できるようにします。		
	5	第1節 平面上ベクトルとその演算					
		1. 平面上のベクトル					
		2. ベクトルの演算					
	6	3. ベクトルの成分					
		4. ベクトルの内積					
	7	第2節 ベクトルと平面図形					
5. 位置ベクトル							
6. ベクトルと図形							
後期	9	7. ベクトル方程式					
		第2章 空間のベクトル					
		1. 空間の座標					
	10	2. 空間のベクトル					
		3. ベクトルの成分					
		4. ベクトルの内積					
	11	5. 位置ベクトル					
6. ベクトルと図形							
7. 座標空間における図形							
12	第3章 数列						
	第1節 数列とその和						
	1. 数列						
1	2. 等差数列とその和						
	3. 等比数列とその和						
	4. 和の記号Σ						
		5. 階差数列			数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにします。和の記号Σを導入して，数列の和をこの記号を使って表すことを学び，記号Σによって，いろいろな数列の和が見通しよく計算できることを理解します。数列を漸化式で表し，漸化式の意味を理解します。		

	2	6. いろいろな数列の和	
		第2節 数学的帰納法	
	3	7. 漸化式と数列	
		8. 数学的帰納法	

教科 科 名		数学	科 目 名	数学Ⅱ		単 位 数	3			
教科書等		数学Ⅱ（数研出版）			教 材 等	チャート式解法と演習 数学Ⅱ（数研出版） 4プロセス 数学Ⅱ（数研出版）				
目 標		いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。								
評価の観点		関心・意欲・態度		数学的な見方や考え方		数学的な技能		知識・理解		
観点の趣旨		いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分における考え方や体系に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。		いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。		いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。		いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。		
評価方法	定期／到達度テスト				○		○		○	
	章末テスト				○		○		○	
	課題		○		○					
	学習状況・小テスト		○		○					
学期		月	単元内容（単元名）			具体的な学習内容				
前期		4 5 6 7 9	演習（センター対策）							
後期		10 11 12 1	演習（2次・私大対策）							

教科名		数学	科目名	数学B		単位数	2
教科書等		数学B（数研出版）			教材等	チャート式解法と演習 数学B（数研出版） 4 プロセス 数学B（数研出版）	
目 標		ベクトル，数列について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを活用する態度を育てる。					
評価の観点		関心・意欲・態度		数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解	
観点の趣旨		ベクトル，数列に関心をもつとともに，それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。		事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，ベクトル，数列における数学的な見方や考え方を身に付けている。	ベクトル，数列において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	ベクトル，数列における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。	
評価方法	定期／到達度テスト			○	○	○	
	章末テスト			○	○	○	
	課題	○		○			
	学習状況・小テスト	○		○			
学期	月	単元内容（単元名）			具体的な学習内容		
前期 後期	4	演習（センター対策）					
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	1	演習（2次・私大対策）					

教科名		数学	科目名	数学Ⅲ		単位数	7
教科書等		数学Ⅲ（数研出版）			教材等	チャート式解法と演習 数学Ⅲ（数研出版） 4 プロセス 数学Ⅲ（数研出版）	
目 標		平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法および積分法についての理解を深め，知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを積極的に活用する態度を育てる。					
評価の観点		関心・意欲・態度		数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解	
観点の趣旨		平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法および積分法に関心をもつとともに，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。		事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法および積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法および積分法において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法および積分法における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。	
評価方法	定期／到達度テスト			○	○	○	
	章末テスト			○	○	○	
	課題	○		○			
	学習状況・小テスト	○		○			
学期	月	単元内容（単元名）			具体的な学習内容		
前期	4	第3章 関数 1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数			分数関数と無理関数についてグラフを描き，それを利用して分数不等式や無理不等式が解けるようにする。また，関数の定義をふり返り，合成関数や逆関数がどのようなときに定義されるかを理解し，求められるようにする。		
	5	第4章 極限 第1節 数列の極限 1. 数列の極限 2. 無限等比数列 3. 無限級数 第2節 関数の極限 4. 関数の極限 5. 三角関数と極限 6. 関数の連続性			x の値を有限の値に近づけるととき，あるいは x の値を限りなく大きくするときなどの場合に，関数の値がどのように変化するかを考察する。片側からの極限など，より詳しく極限を調べて，関数の極限値の性質についてまとめる。三角関数の極限では，いろいろな三角関数の極限が求められるようにする。中間値の定理などの重要な連続関数の性質を認識し，方程式の実数解の存在する区間を調べる場合などに活用できるようにする。		
		第5章 微分法 1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算 3. いろいろな関数の導関数 4. 第 n 次導関数 5. 関数のいろいろな表し方と導関数			微分係数や導関数について理解する。定義に従って和・差・積・商の導関数の公式を証明し，さらに，合成関数，逆関数，陰関数の微分法を示して，微分の計算の習得を目指す。加法定理を利用して三角関数の導関数を導く。続いて，指数・対数関数の導関数へと進む。		
	6	第6章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 1. 接線と法線 2. 平均値の定理			導関数を用いて様々な問題への活用を図る。楕円や双曲線の接線・法線の方程式を求めること，平均値の定理を用いて導関数の符号と関数の増減の関係を調べること，また，最大・最小や方程式・不等式の証明問題などへの応用を考		

後期	7	3. 関数の値の変化 4. 関数の最大と最小 5. 関数のグラフ 6. 方程式，不等式への応用 第2節 速度と近似式 7. 速度と加速度 8. 近似式 第7章 積分法 第1節 不定積分 1. 不定積分とその基本性質 2. 置換積分法 3. 部分積分法 4. いろいろな関数の不定積分 5. 定積分とその基本性質 第2節 定積分 6. 定積分の置換積分法 7. 定積分の部分積分法 8. 定積分の種々の問題 第8章 積分法の応用 1. 面積 2. 体積 3. 曲線の長さ 4. 速度と道のり	察し，微分の有用性を認識する。第2次導関数を用いてグラフの凹凸，変曲点を調べてグラフがかけるようにする。また，速度，加速度と微分法の関連を理解する。 原始関数から不定積分を定義し，その計算について理解する。定積分の計算を理解し，公式による計算や，定積分の置換積分法，部分積分法に習熟する。定積分と微分の関係，すなわち，微分積分学の基本定理を学ぶ。区分求積法について考察し，定積分のもつ意味を理解する。 いろいろな曲線で囲まれた図形の面積を計算する。角錐や円錐などの体積を求め，積分の有用性を理解する。円弧やサイクロイド，アステロイド，カテナリーの曲線の長さを計算する。
	9	第1章 複素数平面 1. 複素数平面 2. 複素数の極形式と乗法，除法 3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形	数学Ⅱにおいて方程式の解として導入された複素数を，座標平面上の点に対応させることで平面上の点として表し，複素数の四則演算の図形的な意味を考える。累乗根の図形的な意味や結果の美しさを通して，複素数平面の考え方の良さを理解する。
	10	第2章 式と曲線 第1節 2次曲線 1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2次曲線の平行移動 5. 2次曲線と直線 6. 2次曲線の性質 第2節 媒介変数表示と極座標 7. 曲線の媒介変数表示 8. 極座標と極方程式 9. コンピュータといろいろな曲線	放物線，楕円，双曲線について，焦点，準線を定義し，幾何学的な定義に基づいて，直交座標におけるこれらの曲線の方程式を導く。曲線の全体やその一部分が，1つの変数で表すことができることを理解し，2次曲線や，より一般の曲線の媒介変数表示へとその考えを発展させる。極座標の意味，直交座標との関係を理解し，極方程式で表された曲線を直交座標で表したり，あるいは逆に，直交座標の曲線の方程式を極方程式で表したりするなどして，極座標について一層の理解を深める。
	11	演習（センター対策）	
	12	演習（センター対策）	
	1	演習（2次・私大対策）	